

令和8年度 第1回森町港湾審議会 議事概要

○日時：令和8年7月16日（木） 13：30～

○場所：森町役場 新棟1階会議室

○議事次第

1. 開会
2. 長瀬副町長挨拶
3. 委嘱状交付
4. 木村会長挨拶
5. オブザーバー紹介
6. 議事
 - ①令和8年度港湾事業概要
 - ②「森港長期ビジョン」の策定に向けて
7. その他

令和8年度 森町港湾審議会 委員名簿

●委員（委嘱期間：令和10年3月31日まで）

所 属	役職名	氏 名	適 用	第1回審議会 出欠
森漁業協同組合	代表理事組合長	木村 俊広	会長	出
森水産加工業協同組合	代表理事組合長	佐藤 善高	副会長	出
森町さわら商工会	会長	岩井 光雄		出
森鮮魚仲買人組合	組合長	上平 久		欠
森観光協会	会長	河野 昭彦		出
森町町内会連合会	会長	宮本 秀逸		出
森町冷凍事業協会	会長	大津 俊浩		欠
森漁業協同組合	副組合長理事	東谷 輝明		欠
森漁業協同組合	総務担当長理事	金丸 友嗣		欠

●委員（委嘱期間：令和9年3月31日まで）

所 属	役職名	氏 名	適用	第1回審議会 出欠
森漁業協同組合	専務理事	東谷 秀幸	森港湾振興会	出
森漁業協同組合	愛護会会長	加藤 司	森港湾振興会	出
森漁業協同組合	代表幹事	吉田 欽一	森港湾振興会	出
(株)河野組	代表取締役	河野 昭久	森港湾振興会	欠
森商工会議所	会頭	佐藤 重人		欠

●オブザーバー

所 属	役職名	氏 名	適 用	第1回審議会 出欠
北海道開発局函館開発建設部 函館港湾事務所	所長 代理 第1工務課長	中村 雅博 川内 宏哉		欠 出
北海道開発局函館開発建設部 築港課	課長 代理 上席専門官	鈴木 誉久 小川 瑛司		欠 出

●事務局（※説明員）

所 属	役職名	氏 名	適 用	第1回審議会 出欠
森町役場水産課	課長	川村 勝幸		出
森町役場水産課	参事兼漁政係長	奥山 太崇		出
森町役場水産課	主任	奈良 祐介		出
※北日本港湾コンサルタント(株)	第2技術部次長	戸松 真介		出
※北日本港湾コンサルタント(株)	専任調査役	多田 英彦		出

【議事概要】

1. 開会

ただ今より令和8年度森町港湾審議会を開会いたします。

2. 長瀬副町長挨拶

本日は大変忙しい中、令和8年度森町港湾審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。日頃より、当町の港湾行政に対しまして、深いご理解を賜るご支援、ご協力をいただいておりますことに心から感謝とお礼を申し上げます。本日町長は公務により欠席をしておりますので、私の方から一言ご挨拶を申し上げます。本日の港湾審議会は、森港の将来像を描く上で極めて重要な議論をいただく場でございます。委員の皆様には、それぞれの専門的な知見と多角的な視点から、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。ご承知のとおり、森港は本町の産業・経済を支える基幹港湾として、また地域社会の発展に欠かせない存在として、長年にわたり重要な役割を果たしてまいりました。一方で、長期構想の策定から20年以上が経過して、社会情勢は大きく変化しております。物流のグローバル化や環境意識向上への変化、地域住民ニーズの多様化などにより、森港に求められる機能も変化しているところでございます。こうした状況を踏まえまして、当町では今年度、これから森港が進むべき方向性を示す森港長期ビジョンを新たに策定することとしております。策定にあたりましては、委員の皆様方から専門的かつ幅広いご意見やご提言を賜りたいと考えております。皆様による活発なご議論が、森港の持続的な発展、ひいては、森町全体のまちづくりに大いに寄与するものと確信をしているところでございます。新たな時代を見据え、港湾機能の強化はもとより、環境との調和や地域との共生といった視点を大切にしながら、より一層地域に開かれた港、そして未来へつながる港を目指してまいりたいと考えております。委員の皆様、また、オブザーバーとしてご参加いただいております函館開発建設部の皆様には、改めまして、審議会へのご参加等のご協力に心より感謝を申し上げます。今後とも皆様のお力添えをいただきながら、未来へつながる森港の姿を共に築いてまいりたいと存じております。最後に、本日の審議会が実りあることをご祈念申し上げて、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 委嘱状交付

委員名簿に基づき、委員委嘱状を交付。

4. 木村会長挨拶

本日は大変お忙しいところ、森町港湾審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。森港は函館管内噴火湾の拠点港であり、地域の生活と産業を支える重要な地方港湾であります。近年は、防災機能の強化、施設の老朽化対策、水産物の安定供給、物流の効率化や観光の振興、環境負荷の軽減など、森港に求められる役割が一層広がっております。本審議会では、森港の将来像や方向性を明らかにし、港湾整備や水産業、商工業、観光、防災、環境、まちづくりの発展にどのようにつなげていくか、長期的な視点を検討してまいりたいと考えております。また、長期ビジョンの策定に当たり、森港湾振興会の委員及び地域経済団体の皆様にも委員として加わっていただき、より幅広い視点からご審議をしていただくこととしております。委員ならびにオブザーバーの皆様には、専門的な知見や地域でのご経験にもとづく率直かつ建設的なご意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はよろしくお願いいたします。

5. オブザーバー紹介

オブザーバーのご紹介をさせていただきます。北海道開発局函館開発建設部函館港湾事務所中村所長様ならびに函館開発建設部築港課鈴木課長様でございます。なお、本日ににつきましては、中村所長の代理として函館港湾事務所第一工務課川内課長様、鈴木課長の代理として築港課小川上席専門官様にご出席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

6. 議事（議事進行：木村会長）

①令和8年度港湾事業概要

事務局より令和8年度港湾事業概要について資料1を説明。

【質疑】

東谷委員：今年度の事業内容については了解した。森港全体で老朽化が進んでいる。今後老朽化対策で決まっているところがあれば、教えてほしい。

オブザーバー（川内）：今年度の工事箇所から先端側に向かって、老朽化対策を進めていく予定である。基部側については、状況に応じて工事を検討するが、まずは上部が落下した箇所を優先的に施工し、建設された当時と同じ高さとなるよう補修工事を実施していく。

②「森港長期ビジョン」の策定に向けて

事務局より森港長期ビジョン策定についての資料を説明。

【質疑応答】

河野委員：北西～北北西の波が強く、越波により防波堤の内側にある栈橋への影響も大きい。

木村会長：森港は水深-5.5mに対応した船舶が入出港可能だが、現在的水深が-5.0m程度と浅くなっていることから、500 トンクラスの貨物船が貨物を満載にして入港できない状態にある。現在貨物船が入港するには、船が沈まないように積載量を落として入港している。また、災害時には、緊急物資輸送に使われる自衛隊の船舶等は水深不足で入港することができない。かつては冷凍船の入港もあったが、貨物を満載にした入出港ができなくなってからは、採算面が悪くなり利用が無くなった。漁船については200 トンクラスの入港が限界であるが、採算面からは入港は難しい状況となっている。

河野委員：500 トンクラスの船舶は本港地区の港口が狭くて入ることもできない。

佐藤委員：本港の岸壁には車止めがほとんどないため、過去に大量水揚げがあった年には、フォークリフトが積荷ごと海に落ちるといった事故があった。また、職員が海に落ちる事故もあったため、整備が必要である。

東谷委員：荷捌所前の岸壁は、昔は傾斜がきつく、冬期のエプロン面の凍結により滑りやすくなり、車止めのないところから転落事故が発生していた。平成5年の南西沖地震以降に岸壁エプロンの改修が行われ、エプロンの傾斜が改良されたため、現在は冬期のエプロン凍結による転落事故はなくなっている。しかし、まだ段差が残っている箇所があり、車両の走行には注意しなければならない。

木村会長：大型船を入れるためには、水深が10m近い岸壁が必要になると思う。その場合は港口の位置の沖出しや幅を広げないといけない。また、水産業的な話をすれば、衛生面の問題をクリアしていく必要もあると考える。

岩井委員：森蘭航路については、コロナ禍前までは頻繁に利用していた。森港周辺にはホタテ養殖施設が広範囲に設置されており、ホタテ養殖施設を横切るような最短ルート走行ができず、航路が限定されることが森蘭航路事業者側からの課題として挙げられた経緯がある。一方、室蘭～森まで直線ルートで結べば、陸上では2時間かかる距離が海上では30分と大きな輸送時間の短縮効果もあるため、これらを活かした地域活性化が期待される。また、駒ヶ岳が噴火した場合は、噴火地点により砂原方向と八雲方向に避難するルートが考えられているが、森港背後の幹線道（国道278号）まで距離があることや迂回ルートへの接続が必要となっている。また、本港地区及び東港地区の両側は河川で囲まれており、橋梁寸断時の場合についても、海からの避難ルートを設けておくことは重要であると思われる。

木村会長：地方港湾として、北海道の経済にも貢献していけるような社会にするためには、水深10m程度の岸壁を確保して、森蘭航路の復活や大型貨物船の入港、災害救助船の入港に適した港の整備が必要と思われる。また、これからは港湾と観光を一体的に連携していく必要があると思う。これから人口がどんどん減っていくことから賑わいや関係者人口の増大等に視点を置いた港づくりも必要である。

宮本委員：今回は港の長期構想ということだが、一体性というか、漁業があつて農業が成り立つ、農業があつて漁業も成り立つといった構成等を考えていくことで、森町全体の将来ビジョンに近づけていけると思う。

岩井委員：鉄道貨物の関係が厳しくなってくると、陸路や海路へのシフトということも考えられる。海路へのシフトに備え、森港の利活用も重要となってくる。

事務局：災害時の防災フロートについては、国へ要望として上げている。避難道路については、管轄している北海道へ毎年陳情を行っている。

佐藤委員：避難道路については、過去に配置構想を整理して、地域の説明会があつたが、今は白紙になっているのか。

事務局：渡島全体をまとめる期成会において要望している状況である。

岩井委員：昔、愛媛県松山から大島までは5時間かかっていたが、高速船が通るようになって、20分程度で着くようになった。このように高速船で森蘭航路がつながれば、人や物の流れが大きく変わるものと考えられる。

加藤委員：新川地区の照明施設に点灯しない箇所があるので、直してもらいたい。

吉田委員：新西港地区（新川地区）の整備もお願いしたい。

事務局：今回の長期構想はいろんな方の力を借りながら、形にしていきたいと考えている。

宮本委員：カーボンニュートラルについて、あらゆる面で大事な課題になると感じている。海の海藻は二酸化炭素の吸収する働きがあるという話を聞いたことがあるが、カーボンニュートラルの現状や進捗状況などについて、分かっていることがあれば教えてほしい。

事務局：森港は水産利用が主体であるため、海藻が二酸化炭素を吸収する取組みが着手しやすい。全国的にはブルーカーボンクレジットとして推進している。現在、道内で30か所ぐらいの地域でクレジットを申請しており、道内で一番進んでいるのは南茅部地区である。南茅部では昆布養殖を実施しており、海中の二酸化炭素を養殖昆布で吸収し、その吸収量に対して貨幣換算したものを、企業が買うことで二酸化炭素削減に貢献するというを進めている。今後、森港で実施するとなると、漁業協同組合が中心になると思うが、取組みを長期ビジョンにどのように関連付けていくかについてはご相談させてほしい。

事務局（資料説明）：第2回の開催までの間に、直近でどうするかという動きを16ページに記載している。現状分析、課題整理と並行して各委員及び関係機関へのヒアリング調査を随時実施していき、8月24日には森町長にもヒアリングを予定している。それらを踏まえ、長期ビジョン素案の作成を行い、11月下旬に第2回地港審を開催したいと考えている。第2回では素案ということで、皆さんからの意見を踏まえて、港の将来像を入れてお示したいと考えている。

木村会長：ただいまの事務局説明について質問等ございませんか。それでは最後に本日オブザーバーとして参加された、北海道開発局函館開発建設部から全体としてご指導、ご意見をお願いします。

オブザーバー（川内）：函館港湾事務所の川内です。森港の整備に関するご意見いただき、ありがとうございました。活発な議論の中、我々としては、皆様の要望等を受けて整備をしていく立場となるため、どのように港を使っていくのかを地元の意志として示していただきたいと思っている。また、老朽化についても、こういう形で使っているため、ここを直してほしいというような位置付けが我々としては必要と考えているので、目指すべきものを今後も議論していただきたいと思っている。

オブザーバー（小川）：函館開発建設部築港課の小川です。森港の整備に関するご意見をいただきまして、ありがとうございました。いろいろな課題があるかと思うが、港の整備に係る予算獲得に向けて連携協力し、森港の長期構想の策定に寄与していきたいと考えている。また、防災の観点では、令和7年度から室蘭市と森町が防災協定を結んでいることから、これは森町の強みになると思っている。整備の後押しとしては、港が使われるということで、ホタテ漁業や水産物がたくさん獲れていることも重要となる。物流の関係では、木材の輸送を実証事業するという話もあるので、そういった観点から、この港に物が入ってきて、物が出るというデータの蓄積により、より森港が使われているという証明にもつながることから引き続きお願いしたい。

木村会長：ご助言、ありがとうございました。西防波堤の現状について一言、発言させてください。現状の使い方としては、非常に危険な状態であり、時化が発生した際には川の石などが潮の流れで漂流して防波堤を乗り越え、港の中に入り堆積する被害が出ている。長期的にはそれらを考慮した整備もしてほしいと考えているので、よろしく願いたい。

本日は各委員からの貴重なご意見大変ありがとうございました。これにて令和8年度第1回森町港湾審議会を終了します。

以上